

# 令和7年度 群馬県蚕糸技術センター研究成果発表会

1 日 時 令和8年2月18日（水）13時30分開会（受付は13時から）

2 会 場 群馬県庁2階 ビジターセンター

3 プログラム

## ◎成果発表会

13:35~13:55	<b>1 「動物用食べるワクチン」の開発</b> 蚕糸研究係 池田 真琴
課題要旨	家畜や愛玩動物の感染症に対するワクチンを繭層に産生する遺伝子組換えカイコの作出が進められている。農研機構を中心としたプロジェクトの元、蚕糸技術センターでは鶏サルモネラ菌抗原タンパク質を繭層に発現する遺伝子組換えカイコの実用品種化を実施し、大量繭生産が可能な実用系統を確立した。
13:55~14:15	<b>2 有機JAS認証の取得に向けて</b> 技術支援係 吉田 草生
課題要旨	蚕糸技術センター内に有機桑園を造成し、昨年度有機JAS認証を取得した。桑は、有機JAS認証の対象となる「有機農産物」に該当する。そこで、有機JAS認証取得までの流れや有機JASに適合した生産方法のポイントについて説明する。
14:15~14:35	<b>3 繭色に関する遺伝子をノックアウトした「青白」の性状</b> 蚕糸研究係 下田 みさと
課題要旨	猛暑による初秋蚕期の繭生産低下に対応するため、「なつこ」より耐暑性に優れる「新青白」の改良を進めている。「新青白」の日本種原種である「青白」の繭色遺伝子をゲノム編集でノックアウトした「K0青白」系統と、「K0青白」×「200」の交雑種の性状について虫質・繭質を評価した結果を報告する。
14:35~14:55	<b>4 遺伝子ノックアウト系統糸の特性評価</b> 群馬県立産業技術センター 繊維工業試験場 生産技術係 清水 弘幸
課題要旨	繭色に関する遺伝子をノックアウトした系統の生糸を用いて、生地製造のための各種加工試験（撚糸、精練、糊付け等）を行い、加工技術に関する基礎データを収集した。また、精練前後における糸の外観観察、強伸度試験、測色試験を行い、物理特性に関する基礎データを収集した。その結果、ノックアウト系統の生糸は、対照糸と比較して実用上問題のない特性を備えていることがわかった。
14:55~15:15	<b>5 繭の食害となるカツオブシムシ類の駆除方法について</b> (一財)大日本蚕糸会 蚕糸科学技術研究所 持田 裕司
課題要旨	近年、養蚕農家等で上蔟した繭（出荷前）がカツオブシムシ類等に食害され、繭に小さな穴が空いたり、表面の繭糸が舐められたりする被害が多発している。これにより繰糸不能な選除繭が増加し、翌年の養蚕への影響も懸念されている。このため、カイコに影響が無くカツオブシムシ類を駆除する方法を検討した。

※ 進行の都合で発表の順位や時間変更することがあります。

※ 発表要旨集等は、当日受付で配布します。

問い合わせ先：群馬県蚕糸技術センター

電話 027-251-5145